

## 5 . 資 料

### 1 ) 研修指導

#### (1) 健康福祉センター（保健所）試験検査担当職員研修

研 修 名	内 容	期 間	人数
新任者研修	細菌検査、ウイルス検査に関する講義および実習	平成 20 年 8 月 25 日～9 月 17 日	4
		平成 20 年 9 月 1 日～9 月 5 日	1
細菌コース	便および食品に添加した細菌の検出	平成 20 年 5 月 26 日～5 月 30 日	8
細菌コース	食品中の混入異物（主にカビ毒）の検査	平成 20 年 10 月 9 日	5
		平成 20 年 10 月 10 日	5
		平成 20 年 10 月 23 日	5
		平成 20 年 10 月 24 日	5
ノロウイルス検査コース	ノロウイルス検査に関する講義および実習	平成 20 年 6 月 2 日～6 月 5 日	4
		平成 20 年 6 月 16 日～6 月 19 日	4
食品化学コース	乳および乳製品の成分規格に関する講義および実習	平成 20 年 6 月 26 日～6 月 27 日	10
レジオネラ属菌検査コース	レジオネラ属菌感染症に関する講義及び環境水検査の実習	平成 20 年 7 月 14 日～16 日・22 日・24 日	1
		平成 21 年 1 月 13 日～15 日・21 日・23 日	3

#### (2) 保健情報（データ）活用研修

研修内容	会場	期 間	人数
初級コース	教育会館	平成 20 年 7 月 24 日	38
中級コース	社会保険船橋保健看護専門学校	平成 20 年 8 月 19 日 平成 21 年 2 月 3 日	44

#### (3) 夏休みサイエンススクール

講座内容	担当研究室	期 間	人数
食品に含まれる着色料について	食品化学研究室	平成 20 年 8 月 19 日 平成 21 年 2 月 3 日	9

#### (4) 地域保健臨床研修

講座内容	期 間	合計人数
各研究室の業務、性差医療について	平成 20 年 5 月 22 日、6 月 29 日、7 月 24 日 9 月 25 日、10 月 23 日、11 月 27 日、12 月 25 日 平成 21 年 1 月 22 日	57

## 2) 講師派遣

年月日	研修・講習会名等	主 題	会 場	担当室・課
20.4.18	千葉県看護協会 特定健診・特定保健指導実践育成者研修会	健診・保健指導事業の計画策定と評価	千葉県看護会館	健康疫学研究室
20.4.22	平成 20 年度市原市食生活改善協議会総会	食の安全について ～食中毒を防ごう～	市原市保健センター	副技監
20.4.23	千葉県 特定健診・特定保健指導実践者育成研修会	健診・保健指導事業の計画策定と評価	千葉県教育会館	健康疫学研究室
20.4.25	第 83 回日本結核病学会総会	低蔓延地域の結核対策における分子疫学	東京教育会館	細菌研究室
20.4.28	水質検査精度管理研修会	細菌検査における留意事項について	千葉県文化会館	細菌研究室
20.5.22	健康と食育を考えるフォーラム 2008	メタボリック世代の中高齢の健康法とは～いつ、なにを、どのように食べればいいのか～	クレオ大阪西ホール	技監
20.5.22	山武保健所・所内研修会	山武保健所管内の平均寿命について(1)	山武健康福祉センター	健康疫学研究室
20.5.23	平成 20 年度水質検査精度管理研修会	細菌検査における留意事項について	千葉県文化会館	細菌研究室
20.5.23	水質検査精度管理研修会	平成 19 年度水質検査精度管理の結果について	千葉県文化会館	生活環境研究室
20.5.27	香取保健所管内栄養士研修会	国が考えるメタボ対策とは？ ～特定健診・保健指導と栄養士の役割～	香取健康福祉センター	健康疫学研究室
20.5.29	千葉エコイズム市民フォーラム	わたしの健康、地球の健康	習志野文化ホール	技監
20.6.5	平成 20 年度千葉県食品衛生等関係職員研修会	食品化学検査について	千葉県教育会館	食品化学研究室
20.6.6	おかやまバイオアクティブ研究会第 31 回シンポジウム 米の栄養性と機能性	大阪におけるごはん食の重要性和官民協働の取り組み	ノートルダム清心女子大学	技監
20.6.6	平成 20 年度健康危機対策基礎研修会	細菌による食品媒介感染症について	千葉県庁	細菌研究室
20.6.6	平成 20 年度健康危機対策基礎研修会(食品媒介感染症)	下痢症ウイルスについて	千葉県庁	ウイルス研究室
20.6.6	平成 20 年度健康危機対策基礎研修会	水系感染症について	千葉県庁	生活環境研究室
20.6.9	平成 20 年度健康危機対策基礎研修会	事例演習	千葉県庁	細菌研究室
20.6.9	平成 20 年度健康危機対策基礎研修会(食品媒介感染症)	疫学調査の手順とポイント・事例検討	千葉県庁大会議室	感染疫学研究室
20.6.10	黒潮ブロック行政栄養士研修会	保健指導にコーチングを活用する	夷隅健康福祉センター	健康疫学研究室
20.6.12	人間生活科・講義	女性の健康	神田女学園高等学校	健康疫学研究室
20.6.16	平成 20 年度船橋市保健所研修会	千葉県の麻疹の流行について	船橋市役所	ウイルス研究室

年 月 日	研修・講習会名等	主 題	会 場	担当室・課
20.6.17	第 1 回千葉県自殺対策連絡会議	千葉県の自殺の統計分析	千葉県教育会館	健康疫学研究室
20.6.18	健康づくり・栄養改善業務担当者会議	健康づくりのための食育事業の取組について	千葉県教育会館	技監
20.6.20	保健所等における検査業務等に関する研修会	千葉県における「食品の食中毒菌汚染実態調査」の結果と解析	千葉県文書館	細菌研究室
20.6.29	ちばぎんコンサルティングプラザ船橋 資産運用特別セミナー	見直しませんか？あなたの生活習慣～メタボ世代のための使える健康法～	船橋グランドホテル	技監
20.7.2	市民講座	環境ホルモン Now !	千葉市都賀コミュニティセンター	食品化学研究室
20.7.4	船橋市食品衛生講習会	食の安全について～細菌・ウイルス対策～	フローラ西船	副技監
20.7.7	山武保健所・所内研修会	山武保健所管内の死亡の状況	山武健康福祉センター	健康疫学研究室
20.7.14	第 2 回野田管内保健師等業務連絡研究会	統計から地域特性を診る・事業評価	野田健康福祉センター	健康疫学研究室
20.7.16	千葉県 特定健診・特定保健指導実践者育成研修会	健診・保健指導事業の計画策定と評価	千葉県教育会館	健康疫学研究室
20.7.17	麻疹対策研修会	麻疹（はしか）の流行にどう備えるか	柏市健康管理センター	ウイルス研究室
20.7.24	平成 20 年度性差を考慮した健康支援事業第 2 回保健・医療従事者研修会	データ生かす健康づくり～平成 19 年度生活習慣に関するアンケート調査から見た健康状態～	千葉県教育会館	健康疫学研究室
20.8.6	シンフォニック・コミュニティセミナー	子供たちに未来を！ - 正しい食生活習慣を身につけさせよう -	千倉町立千倉中学校	食品化学研究室
20.8.21	食品衛生検査部門責任者等研修会	検疫所検査施設における信頼性の確保について	千葉県教育会館	検査課（次長）
20.8.21	食品衛生検査部門責任者等研修会	ノロウイルスの遺伝子検査	千葉県教育会館	ウイルス研究室
20.8.21	食品衛生検査部門責任者等研修会	食品中の残留農薬の試験法について、生化学的試験法の信頼性確保について	千葉県教育会館	食品化学研究室
20.8.22	特定保健指導者向けセミナー	効果的な保健指導のポイントとは！～実践編～	大阪国際会議場	技監
20.8.27	浦安市学校保健会研修会	新型インフルエンザの現状と対策～学校で出来ること・するべきこと～	浦安市健康センター	ウイルス研究室
20.8.27	千葉県庁内自殺対策連絡会議 / 市町村自殺担当者会議	千葉県の自殺の統計分析	千葉県教育会館	健康疫学研究室
20.9.4	薬務行政事務職員研修	「いわゆる健康食品から検出された医薬品について」、 「配置薬に関する違反性について」、 「違法ドラッグの実態について」	新都市ビル	医薬品研究室

年月日	研修・講習会名等	主 題	会 場	担当室・課
20.9.9 9.12	健康危機対策研修会(疫学)	エクセルを用いた解析・事例演習	千葉県庁都町庁舎	感染症学研究室
20.9.25	人間生活科・講義	生と性を考える(1年生) 食生活と健康(3年生)	神田女学園 高等学校	健康疫学研究室
20.10.1	まちの保健室 研修会	1)特定健診・特定保健指導の概要、2)保健指導手法としてのコーチング	千葉県看護会館	健康疫学研究室
20.10.7	性教育に関する講演会	高校生を取り巻く性について	千葉県立佐原 白楊高校	健康疫学研究室
20.10.24	平成20年度第1回検査担当者研修会	ノロウイルスの遺伝子検査(コントロールサーベイの結果)	君津健康福祉 センター	ウイルス研究室
20.10.28	野田地域・職域連携推進協議会	統計から診た健康課題と地域職域の連携	野田健康福祉 センター	健康疫学研究室
20.10.29	山武管内保健師等業務連絡研究会	健康寿命の延伸を図るための健康課題の分析方法について	山武健康福祉 センター	健康疫学研究室
20.10.30	松戸・柏地域職域連携推進協議会	地域・職域連携の考え方について	東葛飾合同庁舎	健康疫学研究室
20.11.1	たべる、たいせつフェスティバル2008	たべる、たいせつ。つながる、きずな。	大阪城ホール	技監
20.11.14	海匝地域・職域連携推進協議会	地域の健康問題と健康づくり対策	海匝保健所	技監
20.11.14	平成20年度第3回管内保健師業務連絡研究会	保健活動に役立てるコーチング	市原市保健セン ター	健康疫学研究室
20.11.18	平成20年度第1回香取地域・職域連携推進協議会	香取地域の健康課題から地域・職域の連携を考える	香取健康福祉 センター	健康疫学研究室
20.11.19	千葉県看護協会 特定健診・特定保健指導実践育成者研修会	健診・保健指導事業の計画策定と評価	千葉県看護会館	健康疫学研究室
20.11.22	ちばの食育2008	「食ること、生きること」生命をつなぐちばの食育	幕張メッセ国際 会議場	技監
20.11.30	平成20年度千葉県「脱!メタボ」キャンペーン地域大会	統計からみる海匝地域の健康状態	銚子市保健福祉 センター	健康疫学研究室
20.12.3	千葉県消防学校特殊災害科講義	危険性物質等に係わる基礎知識及び関係法令「毒・劇物」	千葉県消防学校	医薬品研究室
20.12.5	海匝食育フェスタ	元気な「ちば」を創る「ちばの豊かな食卓づくり」計画	東総文化会館	技監
20.12.8	平成20年度第5回海匝健康福祉センター管内保健師業務研究会	特定健診・保健指導の評価と分析について	銚子市保健福祉 センター	健康疫学研究室
20.12.16	食生活改善推進員中央研修会	朝ごはんを見直そう～朝ごはんの大切さをどう伝えるか?～	千葉市総合保健 医療センター	技監
20.12.25	松戸健康福祉センター保健サービズ評価地域委員会	統計からみた千葉県及び管内のがんの状況と、千葉県におけるがん対策について	東葛飾合同庁舎	健康疫学研究室
21.1.9	柏市保健師等業務連絡研究会	保健データ分析に基づく業務評価～効果的なデータの活用～	柏市役所	健康疫学研究室

年月日	研修・講習会名等	主 題	会 場	担当室・課
21.1.14	平成20年度食育研修会	食育推進のための他団体との協働事業の取り組みについて	市原市保健センター	技監
21.2.5	平成20年度第2回習志野・船橋地域・職域連携推進協議会	統計からみた地域の健康課題と地域・職域の連携を考える	習志野健康福祉センター	健康疫学研究室
21.2.7	平成20年度千葉県職員保健師会第3回全体研修会	環境ホルモンがもたらす健康への脅威 - 未来の子ども達の健康を守るために -	千葉県教育会館	食品化学研究室
21.2.10	筑波大学医学群M2内分泌代謝系講義	メタボリックシンドロームと疫学・公衆衛生 高齢者医療確保法 特定健診・保健指導	筑波大学医学群臨床講堂	技監
21.2.12	平成20年度検査担当職員研修会	カンピロバクターの類縁菌について	習志野健康福祉センター	細菌研究室
21.2.13	平成20年度第2回香取地域・職域連携推進協議会	アンケート調査から見た香取地区のメンタルヘルス	香取健康福祉センター	健康疫学研究室
21.2.18 ~20	JICA マイコトキシン検査技術コース	トウモロコシ、ナッツ類のアフラトキシン汚染について	JICA 兵庫	細菌研究室
21.2.19 ~20	第21回地研全国協議会関東甲信静支部 細菌研究部会研修会	キムチを原因とした腸管出血性大腸菌O157 集団感染事例における検査および行政対応とその問題点	横浜市情報文化センター	細菌研究室
21.2.24	食品衛生検査技術研修会	食中毒及び苦情食品の化学検査について	千葉県教育会館	食品化学研究室
21.3.4	千葉県大規模コホート調査研究事業に関する研修会	千葉県大規模コホート調査研究事業について	千葉県教育会館	技監
21.3.9	銚子市保健推進員総会	食習慣調査についての分析結果報告	銚子市保健福祉センター	健康疫学研究室
21.3.12	第2回市川・浦安 地域・職域連携推進協議会	千葉県と東葛南部地域の健康課題について	市川健康福祉センター	健康疫学研究室
21.3.16	第2回印旛地域・職域連携推進協議会	印旛地域の健康課題について	印旛合同庁舎	健康疫学研究室
21.3.17	平成20年度千葉県特定健診・特定保健指導実践者スキルアップコース(コース)研修会	特定健康診査等の実施状況調査と受診率アップの工夫	千葉県自治会館	健康疫学研究室
21.3.18	平成20年度健康づくり・栄養改善事業担当者研修会	地域の実態を把握する	千葉市文化センター	健康疫学研究室
21.3.19	平成20年度海匝保健所母子保健推進協議会	海匝地域の健康課題	海匝健康福祉センター	健康疫学研究室
21.3.24	市町村歯科衛生士研修会	千葉県食育推進計画 市町村食育推進計画の策定、既存事業、それぞれの市町村の健康問題、それぞれの市町村の社会資本を踏まえた行政歯科衛生士の取り組みについて	千葉県口腔保健センター	技監

## 3) 公開講座

県民を対象に健康で安全な生活を送るための知識の普及・啓発を目的とした公開講座を平成18年12月に第1回を開催し、今年度は2回開催した。

回数	題名	研究室・講師	参加数
第4回 (7月26日)	講演1 食品中の残留農薬について	食品化学研究室 研究員 眞壁祐樹	93名
	講演2 食物アレルギーと食品表示について	食品化学研究室 研究員 橋本博之	
	講演3 結核！身近な感染症	細菌研究室 室長 岸田一則	
第5回 (2月23日)	講演1 いわゆる健康食品に含有される医薬品成分について	医薬品研究室 研究員 長谷川貴志	82名
	講演2 違法ドラッグの成分について	医薬品研究室 主席研究員 石井俊靖	
	講演3 新型インフルエンザの現状	ウイルス研究室 主席研究員 小川知子	

衛生研究所公開講座のホームページ

[http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c\\_eiken/risousu/study/koukai/summary.html](http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c_eiken/risousu/study/koukai/summary.html)

## 4) 精度管理事業

保健所や食品衛生検査施設等での試験検査の精度管理事業で、実施主体が当研究所のものを下記に示す。なお、内容の詳細は当該研究室・課の業務概要を参考にされたい。

- (1) 保健所等試験検査の精度管理調査（細菌研究室）
- (2) 保健所等試験検査の精度管理調査（食品化学研究室）
- (3) 水道水質検査精度管理（生活環境研究室）

5) 試験検査件数

検査項目	依頼によるもの				依頼によらないもの	計
	住民	健康福祉センター	健康福祉センター以外の行政機関	その他(医療機関、学校、事業所等)		
結核		829				829
性病		51				51
ウイルス・リケッチア等検査		833	1,454	20		2,307
病原微生物の動物試験						0
原虫・寄生虫等		76	2	2	13	93
食中毒		1,807				1,807
臨床検査		69				69
食品等検査		1,578	472		81	2,131
(上記以外)細菌検査		90	30	8		128
医薬品・家庭用品等検査			407			407
栄養関係検査						0
水道等水質検査		12	52	106		170
廃棄物関係検査						0
環境・公害関係検査				20	12	32
放射能						0
温泉(鉱泉)泉質検査	15				5	20
その他						0
計	15	5,345	2,417	156	111	8,044

6) 調査研究課題一覧(平成 21 年度重点課題)

	調査研究課題	期間	担当課・室
1	健康食品中の医薬品成分分析法の検討	平成 22 ~ 23 年度	医薬品研究室
2	加工食品における有害化学物質検査法の検討 -グリホサート等-	平成 22 ~ 23 年度	食品化学研究室
3	安房地域女性の長寿の要因に関する疫学調査研究(その後「安房地域の生活習慣病に関する疫学調査研究」と名称変更)	平成 15 ~ 25 年度	健康疫学研究室
4	真菌症原因菌のマイコトキシン産生および産生菌に関する研究	平成 18 ~ 20 年度	細菌研究室
5	LAMP(Loop-mediated isothermal amplification)法による下痢原性大腸菌検査法の確立	平成 19 ~ 20 年度	細菌研究室
6	イオントラップ型 GC/MS による加工食品中の残留農薬一斉分析法の確立	平成 19 ~ 20 年度	食品化学研究室
7	食品由来の内分泌攪乱化学物質の健康リスク評価に関する研究(プロジェクト)	平成 18 ~ 20 年度	食品化学・医動物・健康疫学研究室
8	県内市町村における運動による健康づくり・介護予防事業の有効性とリスクの評価	平成 18 ~ 20 年度	健康疫学研究室

## 7) 受託研究及び共同研究一覧

	調 査 研 究 課 題	実施主体	事 業 名	担当室・課
1	食行動がメタボリックシンドローム及びその構成因子に及ぼす影響に関する研究	日本学術振興会	萌芽研究	技監
2	高感受度CRP値、耐糖能と循環器疾患、腎障害、要介護状態の発症に関するコホート研究	公益信託日本動脈硬化予防基金	コホート研究	技監
3	真菌症原因菌のマイコトキシン産生および産生菌に関する調査研究	文部科学省	アジア科学技術協力の戦略的推進	細菌研究室
4	<i>Campylobacter</i> 属菌およびその類縁菌の千葉県における人の感染状況と分離菌の解析	千葉県	千葉県血清研究所記念保健医療福祉基金調査研究事業	細菌研究室
5	広域における食品由来感染症を迅速に探知するために必要な情報に関する研究	厚生労働省	新興・再興感染症研究事業	細菌研究室
6	千葉県立医療機関で分離されるMRSAの分子疫学解析	(財)大同生命厚生事業団	地域保健福祉研究助成	細菌研究室
7	<i>Aspergillus section Nigri</i> の分子分類などによる類別とオクラトキシン産生	千葉大学	千葉大学共同利用研究	細菌研究室
8	食品中のウイルス制御に関する研究	厚生労働省	新興・再興感染症研究事業	ウイルス研究室
9	ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討	厚生労働省	新興・再興感染症研究事業	ウイルス研究室
10	節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究	厚生労働省	新興・再興感染症研究事業	ウイルス研究室 医動物研究室
11	平成20年度食品残留農薬等一日摂取量実態調査	厚生労働省	平成20年度食品残留農薬等一日摂取量実態調査	食品化学研究室
12	子どもへの虐待とセロトニンの関連性に関する研究	千葉県	千葉県血清研究所記念保健医療福祉基金調査研究事業	食品化学研究室
13	テロの可能性のある病原体等の早期検知・迅速診断法の開発とその評価法の確立に関わる研究	厚生労働省	新興・再興感染症研究事業	感染症学研究室
14	女性外来と千葉県大規模コホート調査を基盤とした性差を考慮した生活習慣病対策の研究	厚生労働省	循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	健康疫学研究室
15	自律神経系機能と耐糖能異常に関する疫学研究	日本学術振興会	基盤研究(C)	健康疫学研究室
16	高齢者の身体活動・外出・社会参加に影響する環境要因に関する研究	日本学術振興会	基盤研究(C)	健康疫学研究室

8) 他誌発表・学会発表・著書等

1) 他誌発表

(1) **ペットのグリーンイグアナにおける *Salmonella*, *Pasteurella* および *Staphylococcus* の保菌状況**. 壁谷英則<sup>1)</sup>、藤田雅弘<sup>2)</sup>、森田幸雄<sup>2)</sup>、横山栄二、依田清江、山内昭<sup>1)</sup>、村田浩一<sup>1)</sup>、丸山総一<sup>1)</sup>. 日獣会誌 (2008) 61:70-74

ペットとして飼育されている 98 頭のグリーンイグアナを調査したところ、17 頭の糞便から *Salmonella* spp. が分離された。また 3 頭の口腔内から *Pasteurella multocida* が、18 頭の口腔内から *Staphylococcus aureus* が分離された。

1) 日本大学獣医公衆衛生学教室

2) 群馬県衛生環境研究所

(2) ***Bacillus cereus* の VNTR 型解析による法科学的土壌資料の異同識別**. 吉川ひとみ<sup>1)</sup>、藤浪良仁<sup>1)</sup>、横山栄二、杉田律子<sup>1)</sup>、安田二郎<sup>1)</sup>、鈴木真一<sup>1)</sup>. 法科学技術 (2008) 13:167-175

土壌資料の異同識別を目的として、土壌サンプルから分離された *Bacillus cereus* の VNTR 型別を試みた。その結果、比較的距離がある地域から分離された菌株は異なる型となり、今後の法科学的検査に使用出来る可能性が示唆された。

1) 科学警察研究所

(3) **便からのチフス菌およびパラチフス A 菌の検出法**. 依田清江. 検査と技術 (2009) 37:253-258.

チフス菌およびパラチフス A 菌は組織侵入性の強い菌であり、主にリンパ系組織で増殖する。このため病期前半、菌は血液から検出されるが検査材料として提出されるのは便が多い。便からの検出法について記載した。

(4) **Isolation of *Helicobacter cinaedi* from a sepsis patient with cellulitis**. Kiyoe Yoda, Takahiro Ito<sup>1)</sup>, Yukihiko Matuda<sup>1)</sup>, and Noriyoshi Murotani<sup>1)</sup>. Jpn. J. Infect. Dis. (2009) 62:169-170.

近年、峰窩織炎を伴う敗血症患者からの *Helicobacter cinaedi* 検出例の報告が散見されるようになったが稀な菌であることから同定が難しい。PCR-RFLP 法による同定例を報告した。

1) 千葉社会保険病院

(5) **2008 年 7 月にみられた小学校における B 型インフルエンザの集団発生 - 千葉県**. 丸ひろみ、小川知子、芦澤英一、福嶋得忍、篠崎邦子、関谷希望<sup>1)</sup>、石川俊樹<sup>1)</sup>、一戸貞人<sup>1)</sup>. 病原微生物検出情報(2008)28:254-255

2008 年 7 月、インフルエンザ非流行期に、県南西部の健康福祉センター管内の小学校で発熱を主症状とする集団発生があった。主な症状は発熱(79%)、消化器症状(33%)、呼吸器症状(15%)で、総欠席者数は 94 名であったが、迅速

診断キット陽性例を含む 25 名が医療機関でインフルエンザと診断された。当所で患者 6 名の鼻咽頭ぬぐい液等を材料とし、ウイルス分離を実施したところ、MDCK 細胞において 6 名全ての検体からインフルエンザウイルスが分離された。同定は赤血球凝集抑制 (HI) 試験 (0.75% のモルト赤血球使用) を実施し、分離株の 6 株は、抗 A/Solomon Islands/3/2006 (H1N1) (ホモ価 640)、抗 A/Hiroshima (広島) /52/2005 (H3N2) (同 1,280) 抗 B/Shanghai (上海) /361/2002 (同 640) に対して、いずれも HI 価 < 10 であり、抗 B/Malaysia/2506/2004 (同 640) に対して、全てが HI 価 160 を示した。千葉県における 2007 / 08 シーズンは、B 型は 2 月と 3 月に 1 株ずつ検出され、いずれも山形系統であったが、今回の集団発生は、Victoria 系統の B 型であった。また、同時期に近隣の医療機関を受診した小児から Victoria 系統の B 型が 3 株分離され、さらに、成人から AH3 亜型も 1 株分離された。今回の流行は、次シーズンの発生動向の重要なデータとなりうるので、非流行期の発生に注意を要すると考える。

1) 君津健康福祉センター

(6) **Structural elucidation of a tadarafil analogue found in a dietary supplement**. Takashi Hasegawa, Masaaki Saijo, Toshiyasu Ishii, Tomoko Nagata, Yuji Haishima<sup>1)</sup>, Nobuo Kawahara<sup>1)</sup>, Yukihiko Goda<sup>1)</sup>. J. Food Hyg. Soc. Jpn. (2008) 49(4):311-315

強壮効果を標榜する「いわゆる健康食品」からヒドロキシホモシルデナフィル及びアミノタダラフィルとともにタダラフィル類縁化合物を検出した。タダラフィル類縁化合物は分取 TLC で単離精製し、HPLC、LC-ESI-MS、FT-ICR-MS 及び NMR を用いて構造解析した。その結果、本物質は methyl-1-(1,3-benzodioxol-5-yl)-2-(chloroacetyl)-2,3,4,9-tetrahydro-1H-pyrido[3,4-b] indole-3-carboxylate であり、「いわゆる健康食品」からはじめて検出された医薬品成分であることが判明した。

1) 国立医薬品食品衛生研究所

(7) **Isolation and structural elucidation of cyclopentynafil and *N*-octylnortadalafil found in a dietary supplement**. Takashi Hasegawa, Kazunaga Takahashi, Masaaki Saijo, Toshiyasu Ishii, Tomoko Nagata, Yuji Haishima<sup>1)</sup>, Yukihiko Goda<sup>1)</sup>, Nobuo Kawahara<sup>1)</sup>. Chem. Pharm. Bull. (2009) 57 (2):185-189

強壮効果を標榜するいわゆる健康食品からシルデナフィル類縁化合物及びタダラフィル類縁化合物を HPLC/PDA、LC-ESI-MS で検出した。TLC 等で単離精製後 NMR、高分解能 MS 等で構造解析を行った結果、それぞれ 5-[2-ethoxy-5-(4-cyclopentylpiperazin-1-ylsulfonyl) phenyl]-1-methyl-3-propyl-1,6-dihydro-7H-pyrazolo[4,3-d] pyrimidin-7-one 及び (6*R*,12*aR*)-2-octyl-6-(1,3-benzodioxol-5-yl)-2,3,6,7,12,12a-hexahydropyrazino[1',2':1,6] pyrido

[3,4-*b*]indole-1,4-dione と構造決定した。

1) 国立医薬品食品衛生研究所

(8) **朝食の重要性とメタボリック世代の中老年の健康 - 一つ、なにを、どのように食べればいいのか**。佐藤真一。季刊イズミヤ総研。2008; 76: 56-61.

地域住民の断面調査成績から、「おなかいっぱい食べる」者は、より多くのエネルギーを摂取していること、エネルギー摂取量を調整しても肥満との強い関連があること、「食べる速さが速い」者は、より多くのエネルギーを摂取していること、エネルギー摂取量を調整しても肥満との強い関連があることを示した。さらに、3年後までの追跡調査成績から、特に女性において、肥満ではなかった者でも、「おなかいっぱい食べる」者、「食べる速さが速い」者では、肥満になる者の割合が高いことを示した。朝食を欠食する者は、エネルギー摂取量を調整しても野菜、果物、豆類の摂取量が少ないこと、アルコール摂取量が多いこと、高LDL コレステロール血症者の割合が高いことを示した。

(9) **期待効果 - 健康が守れるか (特定健診・特定保健指導)**。嶋本喬<sup>1)</sup>、北村明彦<sup>1)</sup>、佐藤真一、小西正光<sup>1)</sup>、磯博康<sup>2)</sup>。日本臨床。2008; 66: 1413-22.

大阪府立健康科学センターが2001年から2007年に実施してきた「健康処方」の成績から、保健指導が適切に実施されれば、「情報提供」により、健診所見の悪化が防げること、「動機付け支援」により、高血圧や脂質異常症の改善・糖尿病の悪化防止が望めること、を示した。ただし、これらの成果は肥満の有無に関わらず認められていること、メタボリックシンドロームの相対危険度は高血圧単独に比べても低く、集団寄与危険割合は10%程度であることから、集団全体の健康を守る観点からは、特定健診・保健指導のみでは平均的な日本人集団では効果的に作用しない可能性を指摘した。

1) 大阪府立健康科学センター

2) 大阪大学

(10) **消火をしない消防士の四半世紀**。佐藤真一。日本疫学会ニュースレター。2008; 32: 5-6.

私は今年、20年過ぎた大阪から千葉県衛生研究所に異動しました。「プロジェクトX」型から「ご近所の底力」型に移ってきた世の流れの中で、私にとってはより行政にも住民にも近い取り組みができるのではないかと考えてのことです。現在までに、住民主体で作ってきた食育推進計画のまとめに携わること、県民の健康づくりの基礎とする千葉県民大規模多目的コホート(当初2万人、最終30万人)調査および全県循環器疾患登録システムの骨格案を作ることができました。都市部と農村部のそれぞれの問題を抱えた、日本の縮図ともいべき千葉県で、今後も、住民の役に立つ疫学調査を行い、それに基づいた施策を住民とともに進めようと思います。

(11) **「低栄養と介護保険認定・死亡リスクに関するコホート研究」を拝見して**。佐藤真一。日本公衆衛生雑誌。2008; 55: 724.

臨床検査の精度という視点を付け加えるべきと考え、「会員の声」として投稿した。国民健康・栄養調査結果に比べて、鶴ヶ谷コホートのベースラインでは、血清アルブミン値は、男女とも、平均値で0.2g/dL低く、3.8g/dL未満の者の頻度が高いことが示されていた。両調査の対象者のリクルート方法を考えたとき、鶴ヶ谷コホートの方が低栄養の方が多くを占めてしまっているに本当に大丈夫だろうか。もし、両者の測定値の正確度に0.2g/dLの差があれば、それだけで説明できてしまう。特定健診においては、標準化(実態としては精度管理)が義務付けられているので、今後はサーベイの結果を見せてもらうといった対応ができる。医療技術者として測定の精度といった視点を忘れずにいないと、保険点数のように絶対値として比較性のあるものと混同しかねない保険者のみで処理をして、無用に特定保健指導対象者を増やしたり、介護予防対象者を減らしたりしてしまわないかと心配している。

(12) **性差の観点から見たメタボリックシンドローム診断基準と特定健診・保健指導**。天野恵子、佐藤真一。Medical Tribune。2009; 42(14): 26.

「健康ちば21」の新たな視点として、集団から県民一人ひとりへの転換、生涯を通じた女性の医療と健康づくりの2つを加えた。代表的な事業として、全国初の県立の女性専用外来の開設と全国への波及、女性の健康に関する疫学調査が上げられる。女性の健康に関する疫学調査のうち、衛生研究所では、基本健診データ収集システムの確立、おたっしや調査を担っている。特定健診・保健指導に、これらの活動成果を科学的根拠として取り入れるとともに、2009年からは、千葉県大規模コホート計画により、個人の生活習慣病発症リスクの予測による一人ひとりに応じた保健指導の実施、県や市町村などの健康増進施策への応用を考えている。将来的には、疾患の発症要因の究明や新薬の開発の可能性も視野に、スタート時点の対象は5万人であるが、最終的には30万人を計画している。

(13) **好感の持てる看護師の髪型 - 病院職員と一般市民への質問紙調査より**。山田真佐美<sup>1)</sup>、米谷陽子<sup>1)</sup>、久保恵子<sup>1)</sup>、青木厚子<sup>1)</sup>、佐藤真一、田久浩志<sup>2)</sup>。第39回日本看護学会論文集 - 看護総合 - 2008; 233-5

同意を得て撮影した看護師50人の髪型をもとに作製したマネキン人形10体を使って質問紙で調査した。2007年4~8月の間に、病院職員537人、一般市民346人から回答を得た。病院職員、一般市民ともに、看護師に求めるイメージのトップは「清潔」であり、髪が肩についていない、髪が目にかかっていない、耳が出ている、毛先がまとまっている、の4つが好感度を上げていた。これらの結果を生かして、清潔感のある髪型をすることが身だしなみとして

必要と考えた。

- 1)大阪府立成人病センター
- 2)中部学院大学

(14) **一般市民からみた看護師の茶髪許容度** . 山田眞佐美<sup>1)</sup>、米谷陽子<sup>1)</sup>、久保恵子<sup>1)</sup>、青木厚子<sup>1)</sup>、佐藤眞一、田久浩志<sup>2)</sup> . 第 39 回日本看護学会論文集 - 看護総合 - 2008;230-2

茶髪の許容度を、マネキン人形 5 体を使って質問紙で調査した。2007 年 4~8 月の間に、病院職員 537 人、一般市民 346 人から回答を得た。病院職員より一般市民の方が否定派が多かった。60 歳代以上の半数以上は黒髪に近い弱いまでなら茶髪がよいとしていた。施設利用者の年代を考えると、中程度までの茶髪に止めることが身だしなみとして必要と考えた。

- 1)大阪府立成人病センター
- 2)中部学院大学

(15) **Caregiver burden for impaired elderly Japanese with prevalent stroke and dementia under Long-Term Care Insurance System.** Isao Muraki<sup>1)</sup>, Kazumasa Yamagishi<sup>1)</sup>, Yoshinobu Ito<sup>2)</sup>, Takashi Fujieda<sup>3)</sup>, Yoshinori Ishikawa<sup>4)</sup>, Yukiaki Miyagawa<sup>5)</sup>, Katsutoshi Okada<sup>6)</sup>, Shinichi Sato, Akihiko Kitamura<sup>4)</sup>, Takashi Shimamoto<sup>4)</sup>, Takeshi Tanigawa<sup>6)</sup>, Hiroyasu Iso<sup>7)</sup>. *Cerebrovasc Dis* 2008; 25: 234-40.

介護保険給付を持続的に受けている者の家族介護者 916 人に対して、Zarit 介護負担質問紙調査を行った。介護負担点数は、脳卒中の既往、認知症ともない被介護者家族に比し、脳卒中の既往があり認知症のない被介護者家族では 21%、脳卒中の既往がなく認知症のある被介護者家族では 49%、脳卒中の既往、認知症ともある被介護者家族では 55%高かった。被介護者家族の性、年齢、雇用状況、被介護者の介護度、被介護者と家族の関係、地域を調整すると、脳卒中の既往がなく認知症のある被介護者家族と脳卒中の既往、認知症ともある被介護者家族との間の点数に有意差はなくなった。家族の介護負担は、被介護者に脳卒中の既往があると高くなり、認知症があると一層高くなるが、認知症があると、脳卒中の既往が加わってもさらに高くはないと考えた。

- 1)筑波大学
- 2)秋田県秋田中央保健所
- 3)茨城県筑西保健所
- 4)大阪府立健康科学センター
- 5)沖縄県宮古福祉保健所
- 6)愛媛大学
- 7)大阪大学

(16) **Caregiver burden for impaired elderly Japanese with prevalent stroke and dementia under Long-Term**

**Care Insurance System.** Isao Muraki<sup>1)</sup>, Kazumasa Yamagishi<sup>1)</sup>, Yoshinobu Ito<sup>2)</sup>, Takashi Fujieda<sup>3)</sup>, Yoshinori Ishikawa<sup>4)</sup>, Yukiaki Miyagawa<sup>5)</sup>, Katsutoshi Okada<sup>6)</sup>, Shinichi Sato, Akihiko Kitamura<sup>4)</sup>, Takashi Shimamoto<sup>4)</sup>, Takeshi Tanigawa<sup>6)</sup>, Hiroyasu Iso<sup>7)</sup>. *Cerebrovasc Dis* 2008; 25: 234-40.

介護保険給付を持続的に受けている者の家族介護者 916 人に対して、Zarit 介護負担質問紙調査を行った。介護負担点数は、脳卒中の既往、認知症ともない被介護者家族に比し、脳卒中の既往があり認知症のない被介護者家族では 21%、脳卒中の既往がなく認知症のある被介護者家族では 49%、脳卒中の既往、認知症ともある被介護者家族では 55%高かった。被介護者家族の性、年齢、雇用状況、被介護者の介護度、被介護者と家族の関係、地域を調整すると、脳卒中の既往がなく認知症のある被介護者家族と脳卒中の既往、認知症ともある被介護者家族との間の点数に有意差はなくなった。家族の介護負担は、被介護者に脳卒中の既往があると高くなり、認知症があると一層高くなるが、認知症があると、脳卒中の既往が加わってもさらに高くはないと考えた。

- 1)筑波大学
- 2)秋田県秋田中央保健所
- 3)茨城県筑西保健所
- 4)大阪府立健康科学センター
- 5)沖縄県宮古福祉保健所
- 6)愛媛大学
- 7)大阪大学

(17) **Trends in the incidence of coronary heart disease and stroke and their risk factors in Japan, 1964 to 2003 the Akita-Osaka study.** Akihiko Kitamura<sup>1)</sup>, Shinichi Sato, Masahiko Kiyama<sup>1)</sup>, Hironori Imano<sup>1)</sup>, Hiroyasu Iso<sup>2)</sup>, Takeo Okada<sup>1)</sup>, Tetsuya Ohira<sup>2)</sup>, Takeshi Tanigawa<sup>3)</sup>,

Kazumasa Yamagishi<sup>4)</sup>, Masakazu Nakamura<sup>1)</sup>, Masamitsu Konishi<sup>1)</sup>, Takashi Shimamoto<sup>1)</sup>, Minoru Iida,<sup>1)</sup> Yoshio Komachi<sup>1)</sup>. *J Am Coll Cardiol* 2008; 52: 71-9.

秋田県井川町と大阪府八尾市南高安地区で発症登録を行ってきた 1964 年から 2003 年までの脳卒中および虚血性心疾患発生率を比較した。両地区とも、脳卒中発生率は男女とも減少した一方、虚血性心疾患発生率は依然として脳卒中より低率にとどまっている。ただし、血管介入事例を全て虚血性心疾患発生とすると、八尾市南高安地区での虚血性心疾患発生率は、近年上昇しているかも知れない。また、近年の脳卒中発生率の低下は鈍化しており、井川町の脳卒中発生率は八尾市南高安地区のそれに比し、2 倍近い高値にとどまっている。

- 1)大阪府立健康科学センター
- 2)大阪大学

3)愛媛大学

4)筑波大学

**(18) Body fat distribution and the risk of hypertension and diabetes among Japanese men and women.**

Choy-Lye Chei<sup>1)</sup>, Hiroyasu Iso<sup>2)</sup>, Kazumasa Yamagishi<sup>1)</sup>, Takeshi Tanigawa<sup>3)</sup>, Renzhe Cui<sup>2)</sup>, Hironori Imano<sup>4)</sup>, Masahiko Kiyama<sup>4)</sup>, Akihiko Kitamura<sup>4)</sup>, Shinichi Sato, Takashi Shimamoto<sup>4)</sup>. *Hypertens Res* 2008; 31: 851-7.

高血圧も糖尿病もない協和町と八尾市南高安地区の住民、それぞれ 2,422 人、3,195 人を性別に 10 年間追跡した。BMI と臍周囲径は、両地区、男女ともに、高血圧発症の予測因子であり、BMI と皮下脂肪厚は、協和の男を除く、両地区、男女で、糖尿病発症の予測因子であった。臍周囲径と胴囲殿囲比は、女では糖尿病の予測因子であったが、男ではそうでなかった。

1)筑波大学

2)大阪大学

3)愛媛大学

4)大阪府立健康科学センター

**(19) Metabolic Syndrome and the Risk of Ischemic Heart Disease and Stroke among Middle-Aged Japanese.**

Choy-Lye Chei<sup>1)</sup>, Kazumasa Yamagishi<sup>1)</sup>, Takeshi Tanigawa<sup>2)</sup>, Akihiko Kitamura<sup>3)</sup>, Hironori Imano<sup>3)</sup>, Masahiko Kiyama<sup>3)</sup>, Shinichi Sato, Hiroyasu Iso.<sup>4)</sup> *Hypertens Res* 2008; 31: 1887-94.

2,613 人の中年期男女を、1990 から 1993 年をベースラインとして 2003 年まで追跡し、42 人の虚血性心疾患と 115 人の脳卒中発症を認めたコホートで、メタボリックシンドロームの危険因子としての重みを検討した。NCEP-ATP の基準では、相対危険度は、虚血性心疾患 2.1(1.1-4.0)、全脳卒中 1.7(1.0-2.7)、脳梗塞 2.0(1.2-3.5)、脳出血 1.1(1.2-2.5)、虚血性疾患 2.0(1.3-3.1)、循環器疾患 1.7(1.2-2.5)だった。集団寄与危険割合は、虚血性心疾患や脳梗塞で 26-27%、循環器疾患で 20%だった。AHA/NHLBI、IDF および日本の基準では、メタボリックシンドロームは危険因子として統計的に有意とはならなかった。

1)筑波大学

2)大阪府立健康科学センター

3)愛媛大学

4)大阪大学

**(20) The joint impact of self-reported behaviors of eating quickly and eating until full on overweight: results of a cross sectional survey .**

Koutatsu Maruyama<sup>1)</sup>, Shinichi Sato, Tetsuya Ohira<sup>1)</sup>, Kenji Maeda<sup>2)</sup>, Hiroyuki Noda<sup>1)</sup>, Yoshimi Kubota<sup>1)</sup>, Setsuko Nishimura<sup>2)</sup>, Akihiko Kitamura<sup>2)</sup>, Masahiko

Kiyama<sup>2)</sup>, Takeo Okada<sup>2)</sup>, Hironori Imano<sup>2)</sup>, Masakazu Nakamura<sup>2)</sup>, Yoshinori Ishikawa<sup>2)</sup>, Michinori Kurokawa<sup>3)</sup>, Satoshi Sasaki<sup>4)</sup>, Hiroyasu Iso<sup>1)</sup>. *BMJ* 2008; 337:a1926

2003 年から 2006 年に実施した 3,287 人の地域住民の断面調査成績から、「おなかいっぱい食べる」者は、より多くのエネルギーを摂取していること、エネルギー摂取量を調整しても肥満との強い関連があること、「食べる速さが速い」者は、より多くのエネルギーを摂取していること、エネルギー摂取量を調整しても肥満との強い関連があることを示した。

1)大阪大学

2)大阪府立健康科学センター

3)大阪府健康づくり課

4)東京大学

**(21) Effects of habitual alcohol intake on ambulatory blood pressure, heart rate, and its variability among Japanese men.**

Tetsuya Ohira<sup>1)</sup>, Takeshi Tanigawa<sup>2)</sup>, Minako Tabata<sup>3)</sup>, Hironori Imano<sup>4)</sup>, Akihiko Kitamura<sup>4)</sup>, Masahiko Kiyama<sup>4)</sup>, Shinichi Sato, Tomonori Okamura<sup>5)</sup>, Renzhe Cui<sup>1)</sup>, Kazuko Koike<sup>6)</sup>, Takashi Shimamoto<sup>4)</sup>, Hiroyasu Iso<sup>1)</sup>. *Hypertension* 2009; 53: 13-9.

539 人の 35 から 65 歳、地域住民、男の 24 時間心拍血圧計検査を行なった。非飲酒者に比し、2 合までの飲酒者も、それ以上の飲酒者も、起床時および昼間の血圧が高いが、就寝中の血圧に差はなかった。起床時の血圧上昇と飲酒量には、量反応関係が認められた。同様に、昼間と就寝中の心拍数の差と、交感神経活動度にも飲酒の影響が認められた。

1)大阪大学

2)愛媛大学

3)筑波大学

4)大阪府立健康科学センター

5)国立循環器病センター

6)植草学園大学

**(22) Establishment of long-term monitoring system for blood chemistry data by the national health and nutrition survey in Japan.**

Masakazu Nakamura<sup>1)</sup>, Shinichi Sato, Takashi Shimamoto<sup>1)</sup>, Masamitsu Konishi<sup>1)</sup>, Nobuo Yoshiike<sup>2)</sup>. *J Atheroscler Thromb.* 2008; 15: 244-19.

国民健康栄養調査における血液化学検査の測定値モニタリングシステムを構築し、評価を行なった。日本医師会と CDC/CRMLN のプログラムを用いて、正確度は総合誤差、精密度は内部精度管理結果とし、CAP の許可範囲の 50% までを認容範囲とした。8 年間の期間を通じて、総コレステロール、HDL コレステロール、トリグリセライド、尿素窒素、尿酸、クレアチニン、AST、ALT、GT、血糖とも、範囲を逸脱することはなかった。

1)大阪府立健康科学センター

2) 青森県立保健大学

2) 学会発表

(1) **Low Discriminatory VNTR Analysis による腸管出血性大腸菌 0157 の系統学的解析**. 横山栄二、橋本ルイ子. 平成 20 年度日本獣医公衆衛生学会 (関東・東京地区) (2008): 千葉

0157 の VNTR 解析に使用する 7 領域のうち、型別能力が低い 3 領域を使用して解析したところ、VT1&VT2 産生株は連続的に変異しているのに対し、VT2 産生株は変異に不連続が認められた。

(2) **Low Discriminatory VNTR Analysis による腸管出血性大腸菌 0157 の系統学的解析**. 横山栄二、橋本ルイ子. 平成 20 年度日本獣医公衆衛生学会年次大会 (2009): 岩手

0157 の VNTR 解析に使用する 7 領域のうち、型別能力が低い 3 領域を使用して解析したところ、VT1&VT2 産生株と VT2 産生株は系統学的に異なる由来であることが示唆された。

(3) **VNTR 解析を用いた腸管出血性大腸菌 0157 の系統学的解析**. 横山栄二、橋本ルイ子. 第 29 回日本食品微生物学会学術総会 (2008): 広島

0157 の VNTR 解析に使用する 7 領域のうち、型別能力が低い 3 領域を使用して解析したところ、VT1&VT2 産生株は毎年分離される型があることが判明した。当該型を PFGE で解析したところ、異なる遺伝子型に細分化されたことから、PFGE 解析では判明しない系統学的情報を VNTR 解析で得られることが示唆された。

(4) **臨床分離肺炎球菌のケトライド耐性機構**. 北川奈緒美<sup>1)</sup>、高屋明子<sup>1)</sup>、横山栄二、山本知子<sup>1)</sup>. 第 91 回日本細菌学会 (関東地区) (2008): 千葉

臨床分離肺炎球菌のケトライド耐性を調査したところ、3 株のテリスロマイシン低感受性株を確認した。それら菌株は、*mefE* および *ermB* を保有しており、これら外来性遺伝子がケトライド低感受性に関与していることが示唆された。

1) 千葉大学

(5) **低蔓延地域の結核対策における分子疫学**. 横山栄二. 第 83 回日本結核病学会総会 (2008): 東京

結核の低蔓延地域の結核対策における VNTR 解析の有用性と問題点について、シンポジストとして解説を行った。

(6) **キムチを原因食品とした腸管出血性大腸菌 0157 集団感染事例における検査および行政対応とその問題点**. 横山栄二. 第 21 回地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会研究会 (2009): 横浜

千葉県内で発生したキムチが原因食品として疑われた 0157 集団感染事例における検査および行政対応を紹介し、今後改善すべき問題点について解説した。

(7) **千葉県におけるチフス症の発生状況 - 35 年間の推移と分離菌の解析によって分かったこと**. 依田清江. 第 82 回日本感染症学会総会 (2008): 松江

1971 年から 2006 年の千葉県におけるチフス症の感染源、感染経路、症状・病態の変化および分離されたチフス菌およびパラチフス A 菌の検出および同定における問題点について発表した。

(8) **千葉県における「食品の食中毒菌汚染実態調査」の結果と解析**. 依田清江、橋本ルイ子、江下倉重、横山栄二. 第 29 回日本食品微生物学会 (2008): 広島

厚生労働省の事業として 1998 年から実施されている「食品の食中毒菌汚染実態調査」に参加し、10 年間に千葉県で得られた結果を解析し報告した。

(9) **患者からの百日咳菌の分離状況について**. 江下倉重、岸田一則、依田清江. 第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009): 千葉

県内 5 ヶ所の医療機関の協力を得て 58 名の百日咳患者の鼻腔ぬぐい液から百日咳菌の分離と百日咳菌 DNA の検出を行ったところ、2 名の検体から菌が分離され、この 2 名を含む 4 名の検体から DNA が検出された。

(10) **中学校における A 群ロタウイルスによる急性胃腸炎の集団発生**. 篠崎邦子、芦澤英一、小川知子、福嶋得忍、丸ひろみ. 第 23 回関東甲信静支部ウイルス研究部会 (2008): 川崎

2008 年 5 月中旬、県内の中学校において修学旅行に出かけた生徒と教職員に急性胃腸炎の集団発生が認められた。患者 17 名について行った、A 群ロタウイルスの EIA 法またはイムノクロマト法では、16 名 (3 年生 15 名、職員 1 名) が陽性であった。検出した A 群ロタウイルスの G 型は 3 型であった。A 群ロタウイルスは、乳幼児以外の感染性胃腸炎の原因になり得ることから、ノロウイルスと同様、急性胃腸炎の集団発生の原因として検査することが重要であると思われる。

(11) **健康人におけるノロウイルスの検出状況**. 篠崎邦子、岡田峰幸、小川知子、吉住秀隆<sup>1)</sup>、清水亜紀<sup>2)</sup>、寒河江恵子<sup>2)</sup>、藤木哲郎<sup>2)</sup>. 第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009): 千葉

ノロウイルス (NV) の不顕性感染の実態を把握することを目的とし、健康人からの NV の検出を試みた。平成 18 年 10 月から 1 年間、13 施設の調理従事者約 47 名から毎月 1 回提出された糞便検体 528 検体について NV の検出を試みた。平成 19 年 3 月、1 検体から NV 遺伝子

が検出された。検出された NV の遺伝子型は G / 2 であった。また、ウイルス量は  $4 \times 10^9$  コピ - /g であり、患者のウイルス量と変わらないものであった。このことから、不顕性感染者が感染源になりうると推測された。

- 1) 千葉県健康福祉部薬務課
- 2) 君津健康福祉センター

**(12) 千葉県内における過去 4 年間の日本紅斑熱患者発生状況.** 福嶋得忍、小川知子、篠崎邦子、吉住秀隆<sup>1)</sup>。第 47 回千葉県公衆衛生学会(2009)：千葉

2005 年 1 月から 2008 年 10 月末までの約 4 年間の、県内における日本紅斑熱患者の発生状況を集計し、全国の状況と比較し、千葉県内における日本紅斑熱患者発生の経年推移を検討した。その結果、約 4 年間で計 11 名の患者が確認された。その内訳は、2005 年が 2 名、2006 年が発生なし、2007 年が 2 名であったが、2008 年は 7 名が確認され、患者数の増加が認められた。1995 年から 2004 年までの集計結果と比較すると、2008 年は、従来の感染地域に隣接した茂原市と市原市で患者が確認された。今後とも、継続して、県内の患者発生状況を把握する必要がある。

- 1) 千葉県健康福祉部薬務課

**(13) 健康茶中に含まれるセンナの判別.** 石井俊靖、西條雅明、長谷川貴志、高橋市長、永田知子。第 45 回全国衛生化学技術協議会 (2008)：佐賀

瀉下成分であるセンノシド A 及び B が、「いわゆる健康食品」中に含有されている事例がある。それらがセンナまたはダイオウ由来であるかを TLC を用いてアントラキノン誘導体の含有状況の違いから判別する簡便な方法を検討した。

**(14) いわゆる健康食品から検出された強壮成分について.** 長谷川貴志、高橋市長、西條雅明、石井俊靖、永田知子、靏島由二<sup>1)</sup>、川原信夫<sup>1)</sup>、合田幸広<sup>1)</sup>。第 45 回全国衛生化学技術協議会(2008)：佐賀

平成 19 年度検査した強壮効果を標榜する「いわゆる健康食品」51 製品のうち 19 製品から強壮成分を検出した。また、1 製品からシルデナフィル類縁化合物及びタダラフィル類縁化合物を検出し、単離精製後、それぞれ構造決定した。

- 1) 国立医薬品食品衛生研究所

**(15) 新規類似薬の検出.** 長谷川貴志。第 45 回全国衛生科学技術協議会自由集会 (2008)：佐賀

千葉県では「いわゆる健康食品」を検査するにあたり、多検体及び多項目の試験検査に対応するため HPLC/PDA 及び TLC を用いて、過去に無承認無許可医薬品として検出された事例のある医薬品成分を中心に医薬品成分 80 成分のスクリーニング試験を実施している。平成 18 年には強壮

効果を標榜したいいわゆる健康食品からタダラフィル類似成分であるクロロプレタダラフィルが検出された。

**(16) いわゆる健康食品 - 健康茶 - 試験検査状況について.** 高橋市長。第 67 回日本公衆衛生学会 (2008)：福岡  
ダイエット用健康茶として販売されている健康食品中に、医薬品成分として扱われるセンナ小葉及び葉軸が検出されることが報告されている。平成 19 年度「無承認無許可医薬品取締事業」の一環として試買した 11 製品の健康茶を HPLC/PDA や TLC 等で検査を行い、1 製品からセンナ小葉及び葉軸を確認した。

**(17) いわゆる健康食品から検出された新規シルデナフィル類縁化合物及び新規タダラフィル類縁化合物について.** 長谷川貴志、高橋市長、西條雅明、石井俊靖、永田知子、靏島由二<sup>1)</sup>、川原信夫<sup>1)</sup>、合田幸広<sup>1)</sup>。第 96 回日本食品衛生学会 (2008)：神戸

平成 19 年度検査した強壮効果を標榜する「いわゆる健康食品」1 製品からシルデナフィル類縁化合物及びタダラフィル類縁化合物を HPLC/PDA 及び TLC で検出した。それぞれ単離精製した後、LC/MS、NMR、高分解能 MS 及び CD を用い、各々構造決定した。

- 1) 国立医薬品食品衛生研究所

**(18) 健康茶におけるアントラキノン誘導体含有生薬の判別.** 高橋市長、石井俊靖、西條雅明、長谷川貴志、永田知子。第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009)：千葉

健康茶に含まれているアントラキノン誘導体含有生薬を HPLC/PDA 及び TLC 分析で判別する方法を検討し、アントラキノン誘導体含有状況と TLC スポットパターンからセンナ、ダイオウ、その他の生薬を判別する方法を確立した。

**(19) いわゆる健康食品から検出された新規強壮成分について.** 西條雅明、石井俊靖、長谷川貴志、高橋市長、永田知子、靏島由二<sup>1)</sup>、川原信夫<sup>1)</sup>、合田幸広<sup>1)</sup>。第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009)：千葉

「千葉県無承認無許可医薬品取締事業」に基づき平成 19 年度(後期)及び平成 20 年度(前期)に試買した「いわゆる健康食品」中から新規医薬品成分であるシクロベンチナフィル、N-オクチルノルタダラフィルを確認した。

- 1) 国立医薬品食品衛生研究所

**(20) *Cassia alata* (ハネセンナ)のセンノシド A、B 及びアントラキノン類の含有状況について.**

高橋市長、石井俊靖、西條雅明、長谷川貴志、永田知子、岡田博<sup>1)</sup>。第 129 回日本薬学会 (2009)：京都

ハネセンナの表示のある「いわゆる健康食品」にセンノシド A、B が検出された。ハネセンナの茎、小葉、葉軸及び花について調査した結果、センノシド A、B 及びアント

ラクニン類を含有することが確認された。

1) 大阪市立大学理学部附属植物園

**(21) ガラナ含有健康食品中のテオフィリン、テオブロミン及びカフェインの含有量について。**

長谷川貴志、高橋市長、西條雅明、石井俊靖、永田知子。平成 20 年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第 21 回理化学研究部会研究会 (2009) : さいたま

ガラナに含有されている医薬品成分であるテオフィリン、カフェイン及びテオブロミンについて「いわゆる健康食品」16 製品中における含有量を調査した。その結果、1 製品に高濃度の上記 3 成分が含有されていた。

**(22) 特定原材料(小麦)検査における ELISA 法とネステッド PCR 法との比較。** 伊藤歌奈子<sup>1)</sup>、田中裕之<sup>1)</sup>、橋本博之、眞壁祐樹、長谷川康行、佐二木順子、宮本文夫、嶋山浩<sup>2)</sup>、手島玲子<sup>2)</sup>。第 95 回 日本食品衛生学会学術講演会(2008) : 東京

食品衛生法に基づき特定原材料(小麦)を含む食品については表示が義務づけられ、測定方法についても厚生労働省から通知されている。加熱加圧処理を施された食品については ELISA 法で陽性となっても確認検査の PCR 法で陰性となる例が複数見られる。小麦測定キットで小麦タンパク質含有量が概ね 10µg/g と測定された市販食品を陽性試料として、通知法 PCR とネステッド PCR 法で測定した。通知法では一部の食品が検出不能であったが、ネステッド PCR 法では陽性率及び増幅バンドの視認率も高く、ELISA 法と近似した結果となった。

1) 株式会社森永生科学研究所  
2) 国立医薬品食品衛生研究所

**(23) ネステッド PCR 法を用いたモデル加工食品中の特定原材料(小麦)の検出。** 橋本博之、眞壁祐樹、中西希代子、佐二木順子、宮本文夫、伊藤歌奈子<sup>1)</sup>、田中裕之<sup>1)</sup>、嶋山浩<sup>2)</sup>、手島玲子<sup>2)</sup>。第 45 回全国衛生化学技術者協議会年会(2008) : 佐賀

容器包装詰加圧加熱殺菌食品等の特定原材料(小麦)の検査において、スクリーニング検査(ELISA 試験)では陽性であるが、確認検査(PCR 試験)では陰性となる事例が報告されている。そこで、多様な加工条件によりモデル加工食品を 11 種類作成し、通知法 PCR とネステッド PCR 法とを比較検討した。通知法 PCR では 9 種の食品から検出可能であったが、増幅バンドが薄く判定に困難を生じた。ネステッド PCR 法では 10 種の食品から検出可能であり、明瞭な増幅バンドがみられた。通知法でバンドが検出されなかった 2 種の食品については、鋳型 DNA 量を増量して通知法 PCR 及びネステッド PCR 法を実施したところ検出可能であったが、鋳型量依存的な検出とならなかった。理由として、過剰な DNA の存在による PCR 反応の物理的な阻害もしくは鋳型量の増量にともなう PCR 阻害物質の増加など

が考えられた。また、DNA 収量が 20ng/µL 未満のトマトソース等 4 種食品についても鋳型 DNA 量を 4 倍量まで増加させて通知法 PCR を実施したところ、検査可能であったが増幅バンドが薄くなり PCR 反応の阻害が考えられた。以上の結果から、DNA 抽出法の検討により、PCR 阻害物質の低減を図り、その上で鋳型 DNA 量を増量することが PCR 法において高感度に検出する有効な手段の一つになると考えられた。

1) 株式会社森永生科学研究所  
2) 国立医薬品食品衛生研究所

**(24) 特定原材料検査における定性 PCR 法の再現性について。** 橋本博之。第 45 回全国衛生化学技術者協議会年会(2008) 自由集会 話題提供 : 佐賀

特定原材料検査において ELISA 法を用いたスクリーニング検査による定量試験で陽性(10ppm 以上)となった際には確認検査を実施するが、測定項目が小麦、そば、落花生のときには定性 PCR 法を用いる。しかし、加工食品の検査等においては PCR 検査結果の良好な再現性が得られないことがある。そこでモデル加工食品等を用いた小麦の PCR 検査結果の再現性について検討を行った。モデル加工食品 7 検体、市販加工食品 1 検体の 8 種について、通知法 PCR 及びネステッド PCR 法の 2 法で再現性試験を 8 試行で行い、50%以上の陽性率を示したときに陽性(検出可能)と判定した。その結果、加工度の高いレトルト食品等から抽出された DNA を用いた定性 PCR 法では、十分な再現性が得られなかったが、その他の食品では概ね良好な再現性が確認された。また、鋳型として使用する DNA 量を増加させることで検出率及び再現性が向上することが考えられたが、鋳型量の増加により PCR 反応阻害が見られた。多種多様な加工食品から特定原材料を抽出し、良好な再現性を得るには、PCR 阻害物質を低減させるような DNA 抽出量の検討等が必要であると思われた。

**(25) HPLC による加工食品中のグリホサートの定量について。** 中西希代子、橋本博之、眞壁祐樹、宮本文夫。平成 20 年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部 第 21 回理化学研究発表会総会・研究発表会(2009) : さいたま

有機リン系非選択性除草剤であるグリホサートについては、平成 20 年 4 月に清涼飲料水混入事件発生により、加工食品中の定量が要求された。緑茶飲料等の液体試料 10 種、カレー等の調理加工食品 3 種からグリホサートを水で抽出し、冷却高速遠心分離後ろ過した。しょうゆ以外は、ろ液に 0.1mol/L 四ほう酸ナトリウム及び 0.1%FMOC 溶液を添加し、反応後振とう静置した。これに酢酸エチルを加えて振とう後水槽を分取し、試験溶液とした。測定は、蛍光検出器付 HPLC を用いて蛍光波長 Ex270nm、励起波長 Em300nm で行った。添加回収率は 1.0µg/g および 0.1µg/g 添加において赤ワインを除いた 11 種の食品での添加回収率は 82.8%~112.4%であった。しょうゆについては FMOC

溶液を 2.0%に変更して反応させた以外は他の食品と同様な操作を行った。しょうゆでの添加回収率は試料中 10 $\mu$ g/g 添加において 91.6%、1 $\mu$ g/g では 83.1%であったが、0.1 $\mu$ g/g においては回収困難であった。

**(26) 飲料水中におけるホルムアルデヒド濃度に関する状況.** 小高陽子、平山久子、保坂久義、長谷川康行. 平成 20 年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部 第 21 回理化学研究部会・研究会 (2009) : さいたま

水質基準項目については基準値の 1/10 の濃度の定量が義務付けられているため、ホルムアルデヒドについても基準値 0.08mg/L の 1/10 である 0.008mg/L を定量下限値として測定したところ、多くの検体に定量下限値未満のピークが認められた。これらの濃度の分布状況は、0.001mg/L 未満が最も多かったが、0.001~0.007mg/L 検出された検体も年度によっては 25.8~46.8%認められた。遊離残留塩素とホルムアルデヒドの濃度に相関は認められなかった。ホルムアルデヒド濃度を把握できたことは、今後基準値が改正された場合に備えて有用であると思われた。

**(27) 地下水を自己水源とする小規模な水道施設の飲料水中のアンモニア態窒素の浄化の実態.** 安齋馨子、相川建彦、長谷川康行. 第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009) : 千葉

平成 19 年度に飲用検査用として当所に搬入された、地下水を自己水源とする専用水道及び小規模専用水道計 50 検体のアンモニア態窒素検出状況及びその処理方法について解析したところ、アンモニア態窒素が測定された 11 施設中、塩素処理のみ行っている施設が 73 % (8/11) と多数を占め、残り 3 施設が塩素処理だけでなく過や凝集沈澱を組み合わせていた。

前者ではアンモニア態窒素が酸化しきれず残り、後者に比較して高濃度の残留塩素が検出された。後者ではアンモニア態窒素が含まれている他に金属等が基準を超える施設が 2 施設あった。処理後 3 施設ともアンモニア態窒素は除去され遊離残留塩素を検出していた。また、基準値内であるが消毒副生成物を生じていたことを確認した。

**(28) 10 年経過後の再分析における温泉成分含有量の変動.** 小高陽子、平山久子、安齋馨子、相川建彦、富田隆弘、長谷川康行. 第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009) : 千葉

平成 20 年度に当所において再分析を実施した源泉のうち、前回の分析からおおむね 10 年経過し、かつ前回の分析も当所で行った源泉 4 ヶ所を抽出し、10 年経過後の温泉成分の含有量の変動を調査した。各温泉成分は、一部の増加や減少および全体的な減少等、様々なパターンを示し、それに伴い泉質名が変更となった源泉も認められた。これら科学的データを用いて温泉成分が変動し得るものであることを示すことは、定期的な分析の円滑な推進のために必要であると考えられた。

**(29) 県内の小規模な水道水中に生成する消毒副生成物について.** 中西成子、長谷川康行. 第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009) : 千葉

県内の小規模な水道施設から供給される飲用水中の消毒副生成物の検出状況を、平成 18~19 年度の検査データを用いて解析した。小規模な水道施設には、自己水源 (地下水) を有する専用水道と小規模専用水道、県や市町村等の水道から供給される上水を水源としている簡易専用水道と小規模簡易専用水道があるが、消毒副生成物項目 (総トリハロメタン、ハロ酢酸類) と他の水質項目 (TOC、遊離残留塩素、結合残留塩素) との関係と比較検討したところ、水源により消毒副生成物の検出状況が異なっていた。専用水道等では、残留塩素と TOC の濃度から総トリハロメタン及びハロ酢酸類の生成濃度レベルを、簡易専用水道等では、TOC 濃度から総トリハロメタンの生成濃度レベルを推測可能であった。また TOC 濃度が水道水の水質基準である 3mg/L 以下であっても、総トリハロメタン濃度が水質基準の 0.1mg/L を超える可能性があることが示唆された。

**(30) Construction of System that Reflects Resident's Health Condition into the Health Service.** Keiko Amano, Ryoko Yanagibori. 3rd Congress International Society of Gender Medicine, Stockholm, 2008

千葉県 22 市町村において、2002 年から 2006 年に実施された基本健康診査データ (280,000 名) のうち、継続してデータの得られた 11 市町村 16744 名分のデータを性・年齢別に分析した。特に、血圧、血清脂質は、50 歳代、60 歳代で男性に比べ、女性で高く、血糖や GOT、GPT、GTP 等の肝機能の指標においても性差がみられた。健康診査データの収集システムと検査項目の標準化を実施することで、わが県における健康問題の性差の特徴を明らかにすることが可能であると考えられる。

**(31) メールを活用した運動継続支援の有効性に関する検討.** 柳堀朗子、原田亜紀子、佐藤眞一. 第 67 回日本公衆衛生学会 (2008) : 福岡

高齢者体力づくりプログラムへの IT 活用が運動の継続に及ぼす効果を、1) メールマガジンによる運動継続支援、2) メールマガジンに参加者からのメールの回覧を加えた運動継続支援により検討した。参加者への最終アンケートの結果から、メールが運動継続に役立った、みんなの様子が知りたいなどの回答が得られた。特定保健指導の積極的支援では個別にメール等を使った支援 (支援 B) を行うことが義務付けられているが、本研究から、メールマガジンやメール回覧という一斉送信メールであってもメールは運動継続支援ツールとして有効であることが示唆された。

(32) **性差の視点から見たちば県民の健康課題**. 天野恵子、柳堀朗子、遠藤幸男、原田亜紀子. 第 2 回性差医学・医療学会 (2009):東京

千葉県民の健康状態を、人口動態統計、平均寿命、基本健康診査データ、生活習慣によるアンケート調査等から分析した。千葉県の平均寿命の全国順位は男性が 18 位、女性 36 位と女性の方が全国順位は低く、平成 15 年度の悪性新生物の部位別 SMR では男は大腸、前立腺、女は乳房、子宮のがんが全国の上位 20 位内であり、全体では、悪性新生物による死亡は男性に多かったが、保健所管内で比較すると女性が多い地域もみられ、性差・地域差があることが示された。平成 17 年度的生活習慣に関する調査の SF 8 による健康関連 QOL の得点を男女で比較すると、8 尺度の全てにおいて男性より女性の QOL が低いという結果であった。県民の健康状態に性差があるのは明白であり、それを考慮した施策の立案が必要であると考えられた。

(33) **コホートへの繰返し調査にみるコホート研究の課題 ~千葉おたっしや調査の経験から~**. 柳堀朗子、遠藤幸男、原田亜紀子、天野恵子. 第 2 回性差医学・医療学会 (2009): 東京

鴨川市で平成 15 年度に 40 歳以上で同意を得られた住民 (約 6000 名) を対象に生活習慣病の発症や死亡と生活習慣の関連を検討するためのコホート調査において、平成 18 年度に実施した疾病確認調査は研究のエンドポイントの 1 つである脳血管疾患、心疾患、骨折の発生状況を把握するために自記式郵送法で実施し、医療機関への確認を同意した者については、医療機関にて本人の回答について確認を行った。4,604 名から回答があり、当該疾患の発症があったとの回答は 428 名 (重複を含む)、その内容では男性は脳血管疾患、女性は骨折の回答が多かった。医療機関への確認承諾者についての確認結果では、本人の申告との一致率は脳卒中 72%、心筋梗塞 47%、骨折 78% であり、心筋梗塞の一致率が最も低かった。

(34) **平成 19 年度「生活習慣に関するアンケート調査」からみた県民の健康状態**. 柳堀朗子、遠藤幸男、原田亜紀子、小林八重子、吉岡康、佐藤眞一、澤田いつ子<sup>1)</sup>、木下寿美<sup>1)</sup>. 第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009): 千葉

県民を対象とした生活習慣に関する調査結果から、男性では 40 歳以上でメタボリックシンドローム該当者・予備群が増加すること、腹囲が基準値以上であることの血圧・血糖・脂質異常への関連の強さに性差があることが示唆された。腹囲と生活習慣の関連は BMI に比べて明確ではなかった。

1) 千葉県健康福祉部健康づくり支援課

(35) **おたっしや調査における食事摂取状況の検討**. 原田亜紀子、柳堀朗子、遠藤幸男、吉岡康、佐藤眞一、澤田いつ子<sup>1)</sup>、大木美和子<sup>1)</sup>、木下寿美<sup>1)</sup>、牛村隆一<sup>2)</sup>、野村

浩子<sup>2)</sup>、水嶋春朔<sup>3)</sup>. 第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009): 千葉

千葉県、鴨川市が共同で実施している「おたっしや調査」において、食事調査と健診データをともに有するものを対象に、食事摂取状況とメタボリックシンドロームとの関連を検討した。食事摂取の状況とメタボリックシンドロームの関連は、性別、年齢によって異なっており、男性では、予防的に働くと考えられていた海藻類、魚介類の摂取がメタボリック群で多かった。女性では、先行研究での報告もあるようにメタボリックシンドローム群で乳製品、野菜、きのこ類、海藻類の摂取が少なかった。多変量調整の結果からは、穀類の摂取はメタボリックシンドロームの促進要因、いも類、魚介類、肉類、乳類は予防的に働く傾向がみられた。

1) 千葉県健康福祉部健康づくり支援課

2) 鴨川市市民福祉部健康推進課

3) 横浜市立大学大学院

(36) **基本健康診査受診者の5年間の受診頻度別の特徴**. 遠藤幸男、原田亜紀子、柳堀朗子、吉岡康、佐藤眞一. 第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009): 千葉

「基本健康診査収集システム確立事業」から得られたデータをを用いて健診受診者の受診頻度及び健診結果判定を比較した。毎年受診する人で 40%以上が占められていた。また、5年間の総受診者のうち 1 回のみ受診者 24% を占めていた。この層への継続受診を働きかけることが受診率向上の 1 つの対策と考えられた。5年間の健診結果判定区分では受診頻度による判定区分の割合の差は見られなかった。正確な比較・検討のためにはデータの長期にわたる収集と比較解析の必要性が示唆された。

(37) **がん及び生活習慣病の予防と早期発見のための共同研究 - 「市民の健康に関するアンケート調査」結果から -**. 小林八重子、柳堀朗子、遠藤幸男、小岩井健司、須田和子<sup>1)</sup>、大久保綾子<sup>2)</sup>、伊藤たい子<sup>2)</sup>、岩瀬百合子<sup>2)</sup>、石毛志津枝<sup>2)</sup>、石毛美佐子<sup>2)</sup>、小長谷博<sup>2)</sup>、藤幸子<sup>3)</sup>、鎗田和美<sup>3)</sup>、三上春夫<sup>4)</sup>、中川原章<sup>4)</sup>. 第 47 回千葉県公衆衛生学会 (2009): 千葉

「がん及び生活習慣病の予防と早期発見のための共同研究」の一環として、県民の健康づくり施策に生かすための健康課題の抽出及び、がん及び生活習慣病の予防の保健指導の実践に繋がる課題を明確にする目的で、協力市において市民の健康状態や生活習慣に関する実態や意識を質問紙による調査を実施した。その結果、現在治療中の病気がある者は男女とも年代が高くなるにしたがって増加し、70~74 歳では男性 75%、女性 80% が治療中の病気を保有し、病気の種類は男女とも高血圧が最も多かった。発症や重症化を予防する効果的・効率的かつ戦略的な健康づくりの早期取り組みが重要と考えられた。

1) 習志野健康福祉センター

- 2)旭市
- 3)海匠健康福祉センター
- 4)千葉県がんセンター研究局

**(38) 千葉県における食育の推進(第一報) - 「ちば方式」による推進計画の策定 -** . 佐藤眞一、柳堀朗子、原田亜紀子、石原徳子<sup>1)</sup>、吉森和宏<sup>1)</sup>、澤田いつ子<sup>1)</sup>、山崎晋一郎<sup>1)</sup> . 第67回日本公衆衛生学会学術総会 . (2008): 福岡

行政計画の主役は県民であるとの観点から、白紙の段階から県民とともに計画づくりをする「ちば方式」により、2008年11月に、元気な「ちば」を創る「ちばの豊かな食卓づくり」計画を策定、公表した。平成18年度にタウンミーティングを10回、グループ意見交換会を16回開催し、これらの意見を元に、各分野の有識者や実践者30人からなる「千葉県食育推進県民協議会」を平成18年度から20年度に各1回、その下部組織である「千葉県食育推進計画策定支援部会(委員7人)」を11回開催して協議した。県庁内では、7部27課の横断的組織である「ちば『食へのこだわり』県民づくりプロジェクト推進連絡会議」が上記の協議に関わることにより、全庁的な推進計画となったと考える。

- 1)千葉県健康づくり支援課

**(39) 千葉県大規模コホート調査研究事業の立案** . 佐藤眞一、吉岡康、柳堀朗子、遠藤幸男、小林八重子、原田亜紀子、中川原章<sup>1)</sup>、藤本修一<sup>1)</sup>、三上春夫<sup>1)</sup>、大平美紀<sup>1)</sup>、中村洋子<sup>1)</sup>、李元元<sup>1)</sup>、山崎晋一郎<sup>2)</sup>、山木まさ<sup>2)</sup>、安部文字<sup>2)</sup>、安田ふさ子<sup>2)</sup> . 第19回日本疫学会学術総会 . (2009): 金沢

平成21年度からの本格実施に向けて、平成20年度に行ってきた計画づくりの進捗状況を述べた。県外の第3者である研究者と住民代表を入れたコホート評価委員会、ELSI委員会の枠組み(委員選定・内諾済み)を含めたシステムづくり、平成21年度当初予算としての3000万円の確保といった点を中心に、高い評価を得たと感じた。

- 1)千葉県がんセンター研究局
- 2)千葉県健康づくり支援課

**(40) 千葉県大規模コホート調査研究事業の立案** . 佐藤眞一、吉岡康、柳堀朗子、遠藤幸男、小林八重子、原田亜紀子、山崎晋一郎<sup>1)</sup>、山木まさ<sup>1)</sup>、安部文字<sup>1)</sup>、安田ふさ子<sup>1)</sup>、羽田明<sup>2)</sup>、李元元<sup>3)</sup>、大平美紀<sup>3)</sup>、中村洋子<sup>3)</sup>、三上春夫<sup>3)</sup>、藤本修一<sup>3)</sup>、中川原章<sup>3)</sup> . 第47回千葉県公衆衛生学会 . (2009): 千葉

「千葉県保健医療計画(平成20年4月改正)」において、第3章:保健・医療・福祉の連携確保 第3節:連携拠点の整備「衛生研究所」の中で、「健康福祉総合研究所(仮称)構想の推進」の中に、「がんを含めた生活習慣病に対する一人ひとりの体質・状況に応じたオーダーメイド型の予防と医療を行う研究体制を構築します。」との方向

性が記載されており、「あすのちばを拓く10のちから」に基づく「ちば2008年アクションプラン」戦略プロジェクト4健康づくり・医療・福祉の連動を通じた「健康県ちば」の実現の中で、一人ひとりに応じた健康づくり・医療の実現に向けた研究・情報収集・発信のために「千葉県大規模コホート調査」を行うという計画が記載されている。20年度に、これに基づき、事業の立案を目的として行った作業について報告した。

- 1)千葉県健康づくり支援課
- 2)千葉大学
- 3)千葉県がんセンター研究局

**(41) 千葉県における特定健診・特定保健指導への取り組み: 女性健康疫学調査から特定健診・特定保健活動まで(シンポジウム1「生活習慣病と社会学」)** . 佐藤眞一 . 第2回性差医学・医療学会学術集会 . (2009): 東京

近年の千葉県における平均寿命の伸びは、全国平均を下回り、女性の平均寿命は既に都道府県別にみて下位に属する。このため、「健康ちば21」の新たな視点として、集団から県民一人ひとりへの転換、生涯を通じた女性の医療と健康づくりの2つを加えた。代表的な事業として、全国初の県立の女性専用外来の開設と全国への波及、女性の健康に関する疫学調査が上げられる。女性の健康に関する疫学調査のうち、衛生研究所では、基本健診データ収集システムの確立、おたっしや調査を担っている。また、県事業としてモデル市町村と取り組んだ健康生活コーディネート事業の成果分析に協力している。特定健診・保健指導に、これらの活動成果を科学的根拠として取り入れるとともに、今後は、千葉県大規模コホート計画により、個人の生活習慣病発症リスクの予測による一人ひとりに応じた保健指導の実施、県や市町村などの健康増進施策への応用を考えている。

9) 研究談話会

第 94 回

開催日時 平成 20 年 10 月 2 日 (木)

演 題 食育というヘルスプロモーション - 「プロジェクト X」から「ご近所の底力」へ -  
衛生研究所 技監 佐藤真一

要 旨： 医師になって 25 年目となる。ずっと疾病予防ばかりやってきた。火の用心だけの消防士みたいなものだ。寝タバコとか焚火のような危険因子を探しもし、夜回りのように講演もした。今回は、大阪で 20 年、野菜の摂取量増加を旗印に産学官協働で行ってきた活動とその成果を紹介し、多様で身近な課題に対応できる千葉の「地域力」を生かした今後の展開を考えたい。

第 95 回

開催日時 平成 21 年 1 月 8 日 (木)

演 題 1 「いわゆる健康食品」中からの強壮成分の検出について  
衛生研究所 医薬品研究室 研究員 高橋市長

要 旨： 当研究室では千葉県無承認無許可医薬品取締事業の一環として「いわゆる健康食品」の試買検査を行っています。その中で、強壮強精効果を標榜した製品から、ED 治療薬の有効成分であるシルデナフィル(商品名：バイアグラ錠)やタダラフィル(商品名：シアリス)等が検出されることがあります。近年では、シルデナフィルやタダラフィルの構造の一部を変化させた新規強壮成分が添加されていることもあり、検査をさらに複雑なものとしています。今回、いくつかの新規強壮成分検出事例を交えて「いわゆる健康食品」の分析法について紹介します。

演 題 2 気候の温暖化と千葉県の衛生動物

衛生研究所 医動物研究室 上席研究員 藤曲正登

要 旨： 近年、衛生動物の世界でも気候温暖化の影響を思わせる事象が観察されています。県内における南方性の動物の新たな発見は、温暖化による生態系の変化の現れとして一般の耳目を集めますが、ヤマビルやカ類など従来から生息する動物の活動期の変化は、刺咬被害や感染症の発生動向に影響を及ぼすより深刻な問題です。千葉県で観察される衛生動物の生息域の変化や発生活長の変動など、温暖化を象徴するような出来事をご紹介します。

第 96 回

開催日時 平成 21 年 3 月 10 日 (火)

演 題 1 衛生研究所での 35 年間の業務を顧みて  
衛生研究所 食品化学研究室 室長 宮本 文夫

要 旨： 衛生研究所に入所してから 35 年が経過し、3 月末日には退職を迎えることとなりました。衛生研究所では食品化学研究室に 32 年間、医薬品研究室に 3 年間在籍し、主として食品添加物に関連した業務に携わってきましたが、その他に時代の要請に対応して多環芳香族化合物、重金属、農薬等の環境汚染物関連の業務や健康食品中の医薬品成分に関する業務にも携わってきました。上記の業務を行ってきた際に設定した研究課題とその成果について紹介したい。

演 題 2 身体活動と循環器疾患・糖尿病

“身体活動の増加”と“身体不活動の減少”どちらが大切？

衛生研究所 健康疫学研究室 研究員 原田 亜紀子

要 旨： 2008 年度より「特定健康診査/特定保健指導」がスタートしたが、この施策の目玉である「メタボリックシンドローム」や「内臓脂肪型肥満」への介入により、循環器疾患や糖尿病の発症がどれだけ抑制可能であるか、国内のエビデンスは十分とはいえない。また、どのような保健指導が予防に効果的であるかについても、施策を実施しながら検証中の段階にあるといえる。本研究談話会では、メタボリックシンドロームの予防にとって重要とされる運動・身体活動に焦点をあてて、これまでの運動生理学等の基礎研究と疫学研究の成果を概観し、この分野における疫学研究や保健指導の目指すべき方向性を提示したい。

10) 公衆衛生情報の提供

広報誌の発行

千葉県衛生研究所年報 56 (2007)(毎年発行)

Health21 No.19、No.20 発行(年2回発行)

- |  |   |
|--|---|
| No.19 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千葉県大規模多目的コホートの開始に向けて私どもの思い</li> <li>・ 落花生とカビのお話し</li> <li>・ ご存じですか? 『おたっしや調査』</li> </ul>                            | 技監 佐藤 眞一<br>細菌研究室 高橋 治男<br>健康疫学研究室 遠藤 幸男  |
| No.20 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 還暦の千葉県衛生研究所</li> <li>・ 食品化学研究室に依頼された食中毒・苦情食品検査の動向</li> <li>・ 農産物の残留農薬調査について</li> <li>・ 第47回千葉県公衆衛生学会発表演題</li> </ul> | 副技監 小岩井健司<br>食品化学研究室 宮本 文夫<br>検査第2課 松尾千鶴子 |

研究所ホームページ

千葉県衛生研究所 [http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c\\_eiken/index.html](http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c_eiken/index.html)

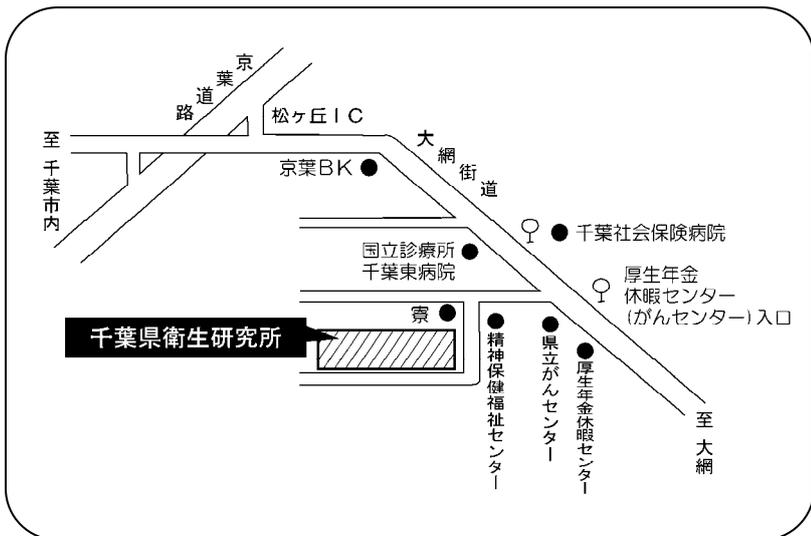
千葉県感染症情報センター <http://www.phlchiba-ekigaku.org>

健康福祉リソースセンター [http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c\\_eiken/risousu/index.html](http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c_eiken/risousu/index.html)

11) 受賞・表彰

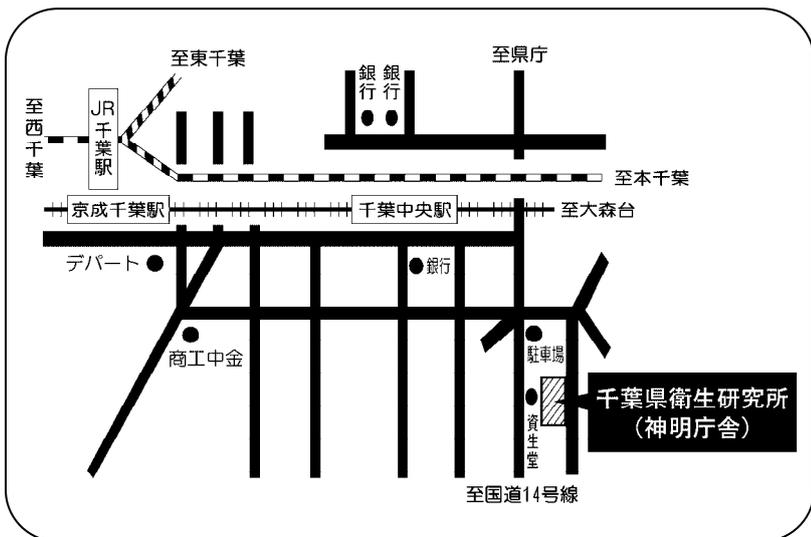
受賞・表彰	氏名	課・室	受賞年度
関東・東京地区獣医公衆衛生学会会長賞	横山 栄二	細菌研究室	20年度
秋田県井川町功労章	佐藤 眞一	技 監	20年度
優良職員表彰	永田 知子 石井 俊靖 西條 雅明 長谷川貴志 高橋 市長	医薬品研究室	20年度

12) 庁舎案内



交通：

JR 千葉駅から  
千葉中央バスのりば  
誉田・鎌取・千葉リハビリセンター  
大宮団地(星久喜経由)  
厚生年金休暇センター入口 下車5分



交通：

電車  
JR 千葉駅下車徒歩20分  
本千葉駅下車徒歩10分  
京成電鉄 千葉中央駅下車徒歩5分

---

千葉県衛生研究所年報

第 57 号

平成 22 年 1 月 15 日 発行

編集・発行 千葉県衛生研究所

〒260-8715 千葉県千葉市中央区仁戸名町 666-2

TEL 043-266-6723

[http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c\\_eiken/index.html](http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c_eiken/index.html)

印刷 千代田印刷株式会社

TEL 043-268-3322

---